

令和 6 年7月1日

ゆめスクールプラン南部地区推進委員会だより 第5号

諏訪市教育委員会 教育総務課

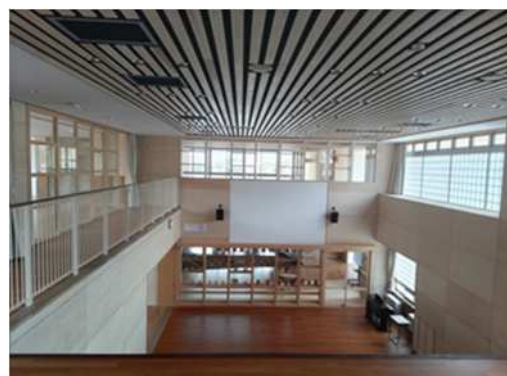


令和 6 年度に入り初めての推進委員会を5月14日に開催しました。約半数の委員が交代になった事もあり、再編に向けたこれまでの経緯などを改めて委員の皆さんと共有しました。策定を進めている基本構想の素案については、スクールバスの検討や通学路の安全対策、敷地の確保や防災機能の他、委員の皆さんから多くの意見をいただきました。

今後は、学校の先生方の意見や要望も聞きながら、最終的な基本構想の策定を目指していきます。

永明小学校・永明中学校の視察を行いました。

新校舎が完成した茅野市立永明小学校・永明中学校の視察を6月13日に行いました。地域住民、教職員、児童生徒を対象としたワークショップやアンケートを行い、多くの市民の思いが設計に反映された小中一体型の学校です。小中学生の日常的な交流の拠点となるメディアセンター（図書館）やグループ研修や発表の場として使用するプレゼンテーションスペースや多目的フロア、児童生徒の成長段階に合わせた教室などが、特徴的でありました。



参加された委員からは、「地域活動のできるスペースがあり、土日也使え、コミュニティセンター、保育園も隣接して交流ができる」、「図書館の本棚が低かったので開放感があり、勉強する環境がよい」、「小中学校の共有するスペースが多くあり、よく考えられ設計されていると思う」といった感想がありました。今後、基本構想～基本設計へと進んでいきますが、今回の視察を南部地区の学校建設の参考としていきたいと思います。



基本構想策定に向け学校部会を立ち上げました。

推進委員会で作成した基本構想の素案について、学校の先生方の視点からの意見や要望を基本構想に反映させる為に学校部会を立ち上げ協議を始めています。

現在の四賀・中洲地区に在住している児童生徒が通っている4校（四賀小学校、中洲小学校、諏訪中学校、諏訪南中学校）の先生方12名で組織し、新しい学校の学校像や学校の特色を中心に協議を行っています。学校という閉

鎖的な空間で学ぶのではなく、地域の人と関わりを持ったり、校舎の中にコミュニティスクールの活動の場があった方がよいという意見などが出されました。

学校部会で協議された内容は7月に開催する推進委員会に報告し、基本構想に反映していきます。

“歩みを拓く” 3校の生徒・児童 その⑤

☆ 実現したい未来に向かい、デジタル技術を活用し、学校のシステムそのものを変革する！「スクールDX※¹」実現への期待をこめて

○《南部地区3校「スクールDX推進」の研修会が開かれました。》

新学期がスタートした南部地区3校の教職員全員が参集し、南部地区職員会(南部研修会)が、5月10日、諏訪南中学校において開かれました。冒頭、三輪教育長より、“社会の変革” “デジタル技術基盤の進展” “デジタル・ネイティブの子どもたち”の現状の中での南部地区再編整備を踏まえ、「スクールDX」への期待が語られました。また併せて、小学校での高学年教科担任制による中学校との連携、LITALICO教育ソフト※²の導入、南部地区ゆめスクールプランの推進状況について、教育委員会より説明を行いました。

その後、ICTを活用した遠隔双方向授業、スタディーノートの有効活用、小小・小中交流、スクールDXと図書館・読書指導等とのかかわりなど、9つの分散会で、話し合い、情報交換が活発に行われました。

※スクールDX※¹(デジタルトランスフォーメーション)：学校がデジタル技術を活用して、カリキュラムや学習のあり方を革新するとともに、教職員の業務や組織、プロセス、学校文化を革新し、時代に対応した教育を確立すること。

※LITALICO教育ソフト※²：小中学校において特別支援教育に携わる先生方を包括的にサポートするソフト

○《教材の内容に即して、機能を使い分けられるようになりたい。そのためには「まず、やってみないと》

「スタディーノートは、互いの考え、意見を知り合う、共有する上で間違えなく有効なツールであることを再認識した。これを、子どもたちの学力や生きる力へどうつなげていくか、改めて考えて行きたいと思いました。」

6月25日に、諏訪市教育委員会教職員研修講座「スタディーノートを上手に活用しよう」が、四賀小学校を会場に、南部地区3校の先生方を中心に24名が参加して行われました。

スタディーノートは、「子ども一人ひとりが自分の考えをじっくり吟味して、デジタルノートで表現したり、情報を共有して友だちの考えに触れたりして、意見交換をすることで、思考力・判断力、表現力の育成にむけた学習活動を支援」するソフトです。各学校において、それぞれ授業での活用について、実践、研究を進めているところでもあります。

「掲示板機能のアナログ版を道德で使っているが、名前で自分の立ち位置を示すことができないので、意見や考えも一緒に確認できるのが良いなと思いました。」「ノートの機能を生かすためにも、児童生徒に使い慣れさせることと、教師側が操作を知り使い慣れることが必要だと感じました。情報モラル的な指導も無論必要となるので、パソコンが教科書やノートと同じ“文房具”のような存在になったらいいと思います。」等々の感想等が寄せられました。



■ご不明な点やご意見、お問い合わせは下記連絡先までお願いします。

＜連絡先＞ 諏訪市教育委員会 教育総務課 教育企画係

TEL : 52-4141 (内線469) FAX 53-8299

E-mail : kyoiku@city.suwa.lg.jp

第6回推進委員会の予定

7月22日(月) 19:00~

場所：諏訪市役所